

令和6年度 第1回豊明市文化財保護委員会会議録

日 時：令和6年5月24日（金）

場 所：豊明市役所新館3階 政策審議室

出席者：佐野委員、近藤委員、相場委員、鈴木委員、岡村委員、永井委員、鬼頭委員、岩本委員
事務局：浅井教育部長、相羽生涯学習課長、青木生涯学習課長補佐、岸田専門員

傍聴人：なし

1 教育部長挨拶

2 議題

(1) 令和5年度 事業報告について

(事務局説明)

- ・歴史民俗資料室の来館者数は3月末現在で3,707名であった。
- ・戦人塚供養祭と上高根警固祭りには委員長が出席した。その他の項目については前回2月に開催した委員会で報告済みである。

令和6年度 事業計画について

(事務局説明)

- ・文化財保護委員会は年2回（5月と2月）の開催を考えている。なお、必要に応じて臨時会を開く予定である。
- ・文化財の市指定については、事務局から候補となる事案を上げ、検討・審議していただきたい。
- ・歴民資料室収蔵庫整備、民具台帳の整理については、歴民資料室1階の収蔵庫の整備はかなり進んだが、3階の収蔵庫の整備はまだ進んでいない状況である。歴民研究会の協力により、3階収蔵庫の整備を徐々に進めていきたいと考えている。
- ・特別展「豊明の伝説～万物に宿る精霊・妖怪」を8月に開催する。これに関連した文化財講座としてナイトミュージアムや竹明かりの制作、講演会などを開催する。

(委 員)

8月前半にイベントが集中するが、子供の夏休みの自由研究解決に向けて何か企画はないか。ワークショップをうまく活用していくとよいと考える。

(事務局説明)

歴史民俗資料室では、（廊下に桶狭間の戦い前後の織田軍と今川軍の時系列の動きを）パネルにして設置した。パネルの内容をクイズ形式で確認することも出来るので、夏休みの宿題の解決の一助になればと考えている。

(委 員)

- ・リニューアルを機に子供たちに歴史民俗資料室に来てもらえるよう、市教育委員会から各学校に働きかけるとよい。
- ・資料を活用していくにはどうしたらよいか校長会で市から働きかけるとよい。

- ・学校へ出向いて、体験プログラムの的なものを取り入れるとよい。

(事務局説明)

バスの利用を考えて、各学校に希望を聞いている。

(委 員)

特別展「豊明の伝説」の展示物は、文字で書かれたものが多いのか。読み聞かせ出来る人がいるとよい。

(事務局)

豊明の伝説などをパネル化し、市内全域の伝説を紹介したマップや絵巻物（複製）のほか、器物の妖怪に対応した民具など立体的なものについても展示を考えている。

なお、読み聞かせテープを用意している。

(2) ナガバノイシモチソウ・大狭間湿地一般公開について

(事務局説明)

- ・今年度も引き続き豊明高校の生徒に協力をお願いする。なお、雨天の場合は開催を中止する。前半の2日間のみナガバノイシモチソウ自生保護地と大狭間湿地に送迎バスを巡回する。

(3) 文化財保護委員会視察研修

(事務教説明)

6月25日（火）に北名古屋市昭和日常博物館、北名古屋市回想法センター、高田寺の見学を考えている。寄贈された民具の有効活用として今後の企画展展示や回想法に生かしていく研修としたい。また、奈良時代からの古刹である高田寺では、重要文化財の薬師如来坐像をはじめ、多くの文化財を拝観させていただく予定である。

3 その他

○ナガバノイシモチソウの遺伝子解析結果について

(事務局説明)

愛知教育大学で作成したナガバノイシモチソウの遺伝子解析結果にもとづき、継続してシラタマホシクサを増やさないようにしていく必要がある。

個体数は一昨年に比べ、1.5倍に増加し、開花数も1.75倍に増加した。また、開花し受粉して蒴果を形成するものは開花数の8割程度で、開花しても2割は受粉せず蒴果を形成しないことが分かった。そのほか、1つの蒴果に含まれる種子数もバラツキがあり、80～100個の分布域が最も多かった。保護地フェンス沿いの除草と保護地東側に繁茂しているヨシのシュート部の除去を行っていく予定である。

○令和6年度の企画展について

(近藤委員)

本年度の企画展「わが家にテレビがやってきた！」を11月から1月に開催する。

寄贈された昭和30～40年代の民具を中心に展示し、寄贈品から見える昭和の生活を懐かしんでもらおうと考えている。また、ワークショップを月1回程度開催し、より歴史資料室に足を運んでもらいたいと思う。

次回文化財保護委員会 令和7年2月28日（金）を予定